

第 105 回薬剤師国家試験 総評

【難易度】★：低、★★：中、★★★：高

必須問題

物理	出題数	5	予想 平均	3	過去問 再出題	0	難易度	★★
	分析化学の問題割合が高かった。また過去問とは聞き方を変えている問題が多く、過去問の知識を派生させておかないと解けない問題が多数出題されたため、難易度は少し高めであった。							
化学	出題数	5	予想 平均	3	過去問 再出題	0	難易度	★★
	全体として、過去問をベースにした基礎的な内容の出題であった。酸化数の問題（問 8）は、過去問とは異なる問い方をしており、化合物の名前から構造を導く必要があったため少し難易度が高めであった。							
生物	出題数	5	予想 平均点	3	過去問 再出題	0	難易度	★
	例年通りの難易度で比較的得点しやすい問題だった。5 題中 3 題が図・構造の問題であるが、既出の内容を理解していれば、十分に正答できる。未出題の内容としては ES 細胞の前駆体を問う問題があった。							
衛生	出題数	10	予想 平均点	7	過去問 再出題	0	難易度	★★
	健康分野 6 問、環境分野 4 問の出題。健康分野からの出題が多く見られた。全体的に過去問を派生させており、考えさせる問題が多く出題された。感染症（問 19）や水質汚濁指標の試験法（問 25）は、新規の問われ方が見られた。							
薬理	出題数	15	予想 平均	11	過去問 再出題	0	難易度	★★
	新傾向となる逆アゴニストの問題（問 26）や機能形態の問題（問 29）、また構造を絡めた問題もあり、例年に比べるとやや難しい印象を受ける問題があった。しかし、過去問ベースの問題もあったため、確実に点数につなげることはできる出題であった。							
薬剤	出題数	15	予想 平均	12	過去問 再出題	0	難易度	★
	図形やグラフの問題が多数出題（問 41、42、45、49、53、54）されている。全体を通して、内容を理解していれば解ける問題が多く、難易度は易しい。							
病態・薬物治療	出題数	15	予想 平均	11	過去問 再出題	0	難易度	★★
	過去問の知識をベースに解ける問題が多かった。しかし、ショック（問 56）、筋ジストロフィー（問 62）、モルヒネ換算比（問 66）、正規分布（問 68）と新規の問題も多少あったため、過去問知識の習得具合が得点率を左右する。							

第 105 回薬剤師国家試験 総評

法規・制度・倫理	出題数	10	予想 平均	8	過去問 再出題	1	難易度	★
	<p>過去問再出題：問 76（100 回問 73）</p> <p>難易度は例年通り平易であり、基本的な知識を問うものが多かった。そのため、過去問の内容をきちんと学習しておけば、正解を導き出せる傾向にあった。例えば、問 75 において「期限及び期限付き承認の仕組み」について問われているが、102 回の問 72 の選択肢を丁寧に学習しておけば、正解へたどり着きやすかったと考えられる。過去問をきちんと学習しておくことが、とても重要である。</p>							
実務	出題数	10	予想 平均	8	過去問 再出題	1	難易度	★
	<p>過去問ベースの知識だけでなく常識的に判断して解答できる問題も多かった。また問 88 や問 90 のように科目の垣根を超えて衛生や法規に関する問題も散見される。</p>							

第 105 回薬剤師国家試験 総評

一般問題（薬学理論問題）

物理	出題数	10	予想 平均	3	過去問 再出題	0	難易度	★★★
	難易度がかなり高めであった。過去問類似で比較的得点しやすい問題（問 93：蛍光光度法）も一部あったが、今までの過去問とは切り口が違う問題（問 95：反応速度など）や、目新しい問題（問 100：濃淡電池など）が多数出題されたため解答が困難だったと考えられる。							
化学	出題数	10	予想 平均	4	過去問 再出題	0	難易度	★★★
	どの問題も過去問の知識を応用する能力が必要であり、難易度は上がっている。また、反応のエネルギー図を用いた問題（問 103）や生体内反応（問 105）など新傾向も多く、苦戦した受験生が多いと思われる。							
生物	出題数	10	予想 平均	6	過去問 再出題	0	難易度	★★
	例年と比較するとやや易しい。図の問題（問 111、120）構造の問題（問 114）実験の問題（問 116）が例年より少なく、過去問の知識で正答できる文章問題が多かった（問 110、112、113、115）。さらに、問 116 の実験問題は実験内容を読み取り、結果を考察する問題であり、思考力が必要であった。また、過去問からさらに踏み込んだ問題（問 117、118）が出題され、過去問の知識だけでは正答は難しかった。化学・生物・衛生の連問（問 119～121）が出題された。							
衛生	出題数	20	予想 平均点	13	過去問 再出題	0	難易度	★★
	健康分野 10 題、環境分野 10 題の出題。全体的な難易度は例年通り。 選択肢を 1 つ解答に選ばせる問題が 6 題出しており、正解に導きやすい傾向であった。化学構造関連問題（問 124、問 132、問 133）は、頻出の構造が多く出題され、図表、グラフ問題（問 126、問 128、問 129、問 130、問 138）は、過去問の知識から思考力を求める問題が出題された。							
薬理	出題数	15	予想 平均	13	過去問 再出題	0	難易度	★
	初出題となる薬物（デクスメトミジン、コバマミド、リナクロチド）もあったが、過去問ベースの選択肢が多く、消去法で正答を導き出すことができるため得点しやすい問題が多かった。構造を載せた問題（問 159、問 161）では、化学や薬剤の知識とつながる出題が見られ、昨年に続き治療との連問が 3 セットあった。そのため、科目にしばられない問題が更に増え、より複合的な知識が必要な出題傾向となっている。							

第 105 回薬剤師国家試験 総評

薬剤	出題数	15	予想 平均	10	過去問 再出題	0	難易度	★★
	<p>【薬物動態学】</p> <p>過去問の内容に準じた出題が多く、比較的解きやすい問題が多かった。問 171 は代謝により構造がどのように変化するのか考えさせる問題が出題されており、今後の国試でも同様の問題が出題されることが予想される。</p> <p>【製剤学】</p> <p>グラフや図の問題（問 177、178、179、180）が多く、グラフのデータを読み取り、考えさせる問題が多かった。問 181 は、添加剤の量を変えることにより製剤の特性がどのようになるのか考えさせる問題であった。全体を通して、考えさせる問題が多く良問であったと考えられる。</p>							
病態・薬物治療	出題数	15	予想 平均	8	過去問 再出題	0	難易度	★★★
	<p>難易度の低い問題（問 167：痛風）が少なかった。ほとんどは過去問を発展させた応用レベルの出題であった。また、第 104 回国試同様、症候（問 184：悪心・嘔吐）も非常に難易度が高かったというも含め、苦戦した受験者が多いと考えられる。</p>							
法規・制度・倫理	出題数	10	予想 平均	8	過去問 再出題	0	難易度	★
	<p>104 回と比較して、難易度はやや低下したと考えられる。各法律や制度、患者対応のポイントやコミュニケーションに関する過去問をきちんと学習していれば、正解を導き出せる傾向にあった。全体的な難易度は、97 回、100 回、101 回、103 回に近いものだった。過去問を丁寧に学習しておくことが重要である。</p>							

第 105 回薬剤師国家試験 総評

一般問題（薬学実践問題）

物理＋【実務】	出題数	10	予想 平均	4	過去問 再出題	0	難易度	★★
	<p>全体として、構造式やグラフを元に考えさせる問題が多かった（問 198、問 199、問 204）。また、今まで出題されたことのない医薬品（問 201）に関する問題も出題され、解答が難しい問題も出題された。しかし、容易に解答できる問題（問 203）も出題されたため、難易度の低い問題と高い問題の差が激しかった。難易度の低い問題を取りこぼすことなく解答することが非常に重要な国家試験であった。</p>							
化学＋【実務】	出題数	10	予想 平均	4	過去問 再出題	0	難易度	★★
	<p>全体として、過去問の知識を応用して解答する問題が多かった。また、構造式から医薬品を判断する問題（問 207）や構造から性質を読み取る問題（問 208）、医薬品の構造を用いて基礎的な有機反応を考える問題（問 210）など、構造を用いた問題が特に多かった。今後は過去問の内容を理解した上で、別の医薬品構造において知識を応用したり、医薬品構造から名前や性質を読み取る力を身につける必要があると考えられる。</p>							
生物＋【実務】	出題数	10	予想 平均	5	過去問 再出題	0	難易度	★★
	<p>例年通りの難易度だった。問 217 は心電図変化を読み取る問題であり、思考力が問われた。実務の問題は問 216 や 225 のような患者情報を読み取って処方薬を選択する問題や、問 218 のような薬剤投与時の注意事項、問 222 のような術前の処方変更など、より実践的な知識が必要となり、正答は困難であった。生物の問題としては問 221 が新傾向の問題で、難しかったと考えられるが、他は比較的正確しやすい問題であったと考えられる。</p>							
衛生＋【実務】	出題数	20	予想 平均	9	過去問 再出題	0	難易度	★★★
	<p>健康分野「6 題」、環境分野「4 題」の出題である（実務 10 問は除く）。衛生では、難易度が優しい問題と難解な問題の落差が大きかった。実務分野では、話題性のある乱用薬物（問 240）を問う時事問題や遺伝子検査の実施理由（問 239）や患者の検査値から正確を導く問題（問 226、問 236、問 244）が多く出題され、難易度はやや高めであった。</p>							
薬理＋【実務】	出題数	20	予想 平均	13	過去問 再出題	0	難易度	★★
	<p>10 セット中 7 セットが前問で選んだ選択肢に対して問われる形式となっていた。そのため、薬理部分の問題は平易であるが、実務部分を正答できないと得点しにくく、難しく感じる学生も多かったと考えられる。しかし、実務部分も過去問の内容からの派生が多く、まか患者情報を処方や持参薬から読み取ることで正答することは可能であった。</p>							
薬剤＋【実務】	出題数	20	予想 平均	10	過去問 再出題	0	難易度	★★★
	<p>104 回と比較すると難化傾向である。処方から、処方変更の提案や疑義照会など医師への提案に関する問題が多く、「薬剤師としての技能を問う」問題が多数見受けられた。そのため、薬物相互作用や遺伝的多形など幅広い知識が求められている。計算問題は 2 題出題されていたが、過去問をレベルの問題であった。</p>							

第 105 回薬剤師国家試験 総評

病態・薬物治療 ＋【実務】	出題数	20	予想 平均点	13	過去問 再出題	0	難易度	★★
	昨年と比べ、より臨床的な内容出題された。過去問の知識をふまえた上で、考える問題が多く出題された。							
法規・制度・倫理 ＋【実務】	出題数	20	予想 平均	15	過去問 再出題	0	難易度	★★
	「PECO」または「PICO」の様な新傾向の出題もあったが、難易度は例年通りであった。過去問の内容をしっかりと学習できていれば、得点できる問題が散見された。法規・制度・倫理を得点源とするためのポイントは、過去問の内容を把握し、日本語をきちんと読んで、問われていることに気付くことである。							
実務	出題数	20	予想 平均	13	過去問 再出題	0	難易度	★★★
	衛生、薬理、病態・薬物治療、薬剤からの出題が見られるなど科目の垣根を超えた問題や「AMR」や「健康サポート薬局」に関する問題など近年話題になっている事項に関する問題が多く出題された。また、計算問題も3題出題されているが、特別な公式などを知っている必要はなく、文脈から流れを追っていけば解答できるものであった。今後の対策として全体的に幅広い知識や読解力を身に付けることを意識しながら学習する必要がある。							

全体分析と今後の展望（対策）

1) 必須問題

昨年と比べ難易度は高めであった。例年に比べ、薬理の難易度が上昇していること、図やグラフの問題が多いこと（特に薬剤）が要因と考えられる。今後は図やグラフなどを意識しながら勉強を進める必要がある。

2) 一般問題

・理論問題

物理、化学に関しては新傾向の問題が出題されたため、難易度は上昇した。しかし、必須で難易度が上昇した薬理は過去問ベースで解ける問題が多く、また衛生に関しても過去問類似が2問出題されており、昨年と比べ、全体的に難易度は低下したと考えられる。

・実践問題

昨年と比べ難易度は高めであった。特に実務部分はより実践（臨床）的な内容が増え、一筋縄ではいかず、すぐに正解を導き出すことができない問題が多かった。

3) その他

上記でも記載をしたが、必須問題で図やグラフが多く出題された。また、例年通り理論問題①問119～121で物・化・生、衛生の連問、理論問題②で薬理治療の連問が3セットと出題されたことから、今後も継続されると考えられるため、科目間の繋がりを意識し、勉学に励む必要がある。